

働くシニアの 生き生き 相談室

回答者 池口武志さん

人間は潜在能力の10%以下しか使っていないと指摘したのは、米国の心理・教育学者ハーバート・オットーです。潜在能力を引き出す鍵は、「私利私欲だけではなく、社会に貢献する大きな人生目標を持つこと」や「新しい人と積極的に交流を図る」ことにあると記しています。

人生の目標が描きにくい、あるいは目標があっても心の奥にしまったままの人が多い中高年世代にあって、あなたは「地方の若者の就職支援」という大きな人生目標をお持ちです。そのことに大きなやりがいを感じるお仕事は、まさに「天職」とも言えるのではないのでしょうか。

定年前後期で転職・独立を果たし、充実したキャリア人生を送って

相談

若者支援で開業したい 心構えは

大手メーカーの管理職です。元々新卒で入ったのですが、30代になって子供の教育に関心を持ち、地方の学校事務員として一度転職しました。ところが、仕事を巡り精神的に追い込まれてしまい、結局、旧知の

つてを頼って16年ぶりに古巣に帰り今に至ります。もっとも、学校勤務時代に手掛けた学生の就職支援の仕事はやりがいがありました。キャリアコンサルタントの資格も取りました。定年後は嘱託社員として会

社に残るより、再び地方の若者の就職支援に携わりたい気持ちが強いです。ただ、雇われの身より自由が利く開業を検討したいです。思いを実現するために大切な心掛けはどんなことか助言をお願いします。(58歳男性、会社員、東京都)

業態に関係なく「天職」に向かって

いる人を対象にした私の調査では、「自分の強みに気づき、強みを生かす天職を探求し、出会った」「社会的に意味のある仕事、後進世代のサポーターとしての役割を果たしている」「これまでとは違う人との交流を持ち、働く視界を広げ続けていく」の三つが大きな共通点でした。副業やテレワークなど働き方の多様化が進む中で、地方に居ながら都心の企業に採用される事例も増加傾向にあります。

また、地方には深刻な人材不足に悩む企業も多いと聞きます。経験豊かなあなただからこそ提供できる価値があると思います。

組織に属するにせよ、独立するにせよ、それは手段に過ぎません。天職を定め、「人と人との出会いに自分をさらすほど、成長可能性は開かれる」とオットーは述べています。これからも新鮮な冒険旅行を続けてください。(定年後研究所監修)



1963年、京都府生まれ。同志社大卒。生命保険会社勤務などを経て、2021年4月から一般社団法人定年後研究所所長。

「70歳現役時代」を迎え、定年後の働き方や転職、移住、社会貢献など、ミドル・シニアの疑問や悩みを募集します。人生の転機に転職や起業を経験した6人が交代で答えます。